

# 暑くて雨の少ない夏

登醸造 小西淳子

## まいど市がスタート

六月一〇日に北海道の緊急事態宣言が解除され、延期していたJAよいち女性部のまいど市が一六日から始まりました。今年もJA職員の協力を得てコロナ対策をしっかりと上での開催です。コロナ前より少しお客さんが減っている感じはあります。毎回五〇人くらいの方が来てくれます。開店一時間前から並んで待つしてくれる常連さんもあり、本当にありがたい限りです。

今年はブロッコリーとカリフラワーの苗をたくさんいただいて植えたのですが、予想以上に良いものができ、よく売れました。また、新たな作物としてビーツを植えてみました。それなりの大きさのものができ、売り物にはなりましたが、売れ行きはいまひとつでした。「ビーツは私の手に負えない」と話すお客様がいたり、お客様に食べ方を聞かれて「サラダとかスープですかね」と答える

と、「ふーん」という返事だけで手は伸び「なかつたりという感じです。まいど市の他のメンバーが作っていない品目を作ると売れる確率が高いのですが、珍しい野菜はお客様が敬遠する傾向があります。どうやって食べるのかを具体的にイメージできるように説明したり、栄養面での特徴も伝えたりすればもう少し売れるかもしれません。ビーツのいろいろな食べ方を試し、ニンジンの代わりに使えばだいたいおいしく食べられることが分かりました。来年は売れ筋商品にできるようにしたいと思います。

## 町内研修で刺激受ける

まいど市の他に、女性部の夏場の活動として町外研修を行っています。コロナ前はバスを借りて農業試験場やくるるの杜などを視察しました。昨年は中止でしたが、今年は町外は難しいけれども町内でできる研修を検討し、JAの共同選果場と部員の畑を視察することにしました。

選果場ではミニトマト、ピーマン、ササゲの選果をしています。私はササゲを生産していますが、個選で出荷しているので共同選果場を見るのは初めてでした。思ったよりたくさん的人が働いていて、流れ作業で効率良く選果が進んでいました。部員の畠は醸造用ぶどう、生食用ぶどう、ミニトマトの畠を視察しました。醸造用ぶどうは自分が生産している作物なので、生育状況や病気の出見合などを質問しました。生食用ぶどうの畠は棚に整然と並んでいたのが見事でした。シャインマスカットなどの単価の高いぶどうもあり、まさに金のなる木に見えました。ミニトマトの畠はハウス内の温度が上がり過ぎないように遮熱シートを使つていて、中に入らせてもらつて外よりも涼しくてびっくりしました。他の人の畠を見る機会はありませんのでとても興味深く、勉強になりました。

初めは夏場の忙しい時期にどうして研修会をするのだろうと思いました。しかし、忙しくて疲れがたまつたときは気分

が分かってきました。特に女性はなかなか家から離れることができないので、女性部の研修という理由付けがあると外に出やすくなっています。これは大事な行事だと今は思っています。できるだけ参加しやすいように、市場の集荷のない日に日程を設定しています。刺激を受け気分転換することで、次の日からの農作業をまた頑張れます。

具合が悪くなる日が何日かありました。体を壊しては何にもならないので、暑さがおさまるまで朝と夕方の作業時間を持ぱして昼間は休むようにしました。本州ではそうしていると聞いたことがあります、まさか北海道でもこんなことになるとは驚きです。

気温の高さに加えて雨が少なかつたのも今年の特徴です。醸造用ぶどうの成木は雨が少ない方が病気が出づらくなるの

が転換が必要なことが分かりました。特に女性はなかなか家から離れることができないので、女性部の研修という理由付けがあると外に出やすくなっています。これは大事な行事だと今は思っています。できるだけ参加しやすいように、市場の集

## 小西淳子さん

1974年愛知県生まれ。  
大学院卒業後、酪農専門雑誌の記者として働く。

2011年に夫と共に北海道余市町で新規就農。

醸造用ブドウ1.9ha、サクランボやプラムなどの果樹0.3haを生産する。

2014年にワイナリー「登醸造」を立ち上げ、ワインの製造・販売を開始。

夫と猫1匹、羊3頭とともに暮らす。



で良いのですが、苗木は水がないと育ちません。今年はたまたま二〇一〇年のまとまった面積を改植したので、雨不足でせっかく植えた苗木が枯れてしまうのではないと氣をもみました。夫は今までの知識と経験からつちの畑に合う苗木の植え方を考え、「一〇年の集大成」と意気込んで改植に臨んだのですが、厳しい気候に苦戦しました。できるだけのことはしようとスピードプレーヤーに水を汲み、灌水チューブで水やりをしました。そのかいがあり、一時は枯れたように見えた苗木も息を吹き返しました。生育は遅れてしましましたが、この天候では枯れなければ御の字だと思っています。

## まさかの九月収穫？



例年より早く熟した醸造用ぶどう

収穫は一〇月中旬からで、まだ一ヶ月以上も先なのにこの状態はどうなってしまったのかと心配になりました。実を食べると甘みもあって、夫と「もう収穫できるだよね」と冗談で話していたのですが、試しに糖度を測ってみると一九・八度ありました。これは昨年の一〇月初旬より高い値です。気温が高く天気も良かつたので、ぐんぐん実が熟したようです。まさかの九月収穫になるのか？急いで出

荷先のワイナリーにぶどうのサンプルを送り、糖度や酸、味などを確認してもらいました。糖度は二〇度を超えていて収穫可能な値でした。ただ、ぶどうの健全性を示すPHの値が良好で、酸も落ちていなかったため、まだ待てるという判断になりました。熟し過ぎてもダメなので、おそらくもう一度サンプルを送り、九月下旬からの収穫になるのではないかと予想しています。この原稿が読まれる頃には収穫が終わっているかもしれません。例年より日程が早まるので、急いで収穫の準備に取り掛かりました。夫婦二人では人手が足りないのでアルバイトを雇います。まだ安定した人員確保の体制ができるいないのですが、今年は近所にあるNPO法人や札幌の大学の協力を得て農業や環境に関心のある学生に声を掛けています。それが上手くいけば、毎年同じ方法で募集したいと考えています。ボランティアで手伝いに来てくれる友人もおり、たくさんの方々に支えられて収穫をします。

## さくらんぼ大豊作 ササゲも上出来



さくらんぼを守るフクロウの人形

さて、ぶどう以外の作物の今年の状況ですが、まず、さくらんぼが大豊作でした。雨が少なかったので雨よけハウスをかけていないうちのさくらんぼでも割れたり病気になる実が少なく、親戚に送るだけでなく直売や市場に出荷することができました。鳥害を防ぐため、今年はフクロウの人形を木にぶら下げました。この土地の前の持ち主から受け継いだものですが、正直、効果があるのか半信半疑

で今まで使つていませんでした。他に手ごろなグッズがないかネットで検索するところの人形が売られていて、意外と効果があるのかも知れないと思い使つてみると害が減りました。「子供だましだしな」と思っていたのですが、考えてみれば相手は鳥。子供だましでいいのかもしれません。ただ、どうやら鳥はすぐに慣れてしまうようなので、来年も効果があるのかは分かりません。

ササゲは定植後すぐに強風にさいられ、出鼻をくじかれました。しかし、その後は台風などの被害もなく順調に推移しました。灌水チューブを使っていつでも水をやれるようにしてないので、雨が少ない今年も水に困ることはありませんでした。醸造用ぶどうに振り向ける時間を増やした分、ササゲの売上は昨年より減りましたが、今年の目標は達成できたので上出来だったと思います。ただ、連作障害なのか病気が増える



たくさん実ったササゲ

傾向にあるので、来年は畑の場所を変えが必要がありそうです。また、ウイルス病を運んでくるアブラムシの防除にも力を入れたいと思っています。  
ここから先は醸造用ぶどうの収穫、ワインの仕込みと一年で一番忙しくなります。暑さや雨が降らずに休日がほとんどなかつたことなどでちょっと疲れを感じていますが、もう一度気力を取り戻してピクを越えていきたいと思います。